

6月議会報告
つづき

放課後学習支援を全小学校に



学習支援のNPOやPTAの方々と

高橋は5月26日に多聞の丘小学校で開催されている「放課後学習ボランティア」を見学しました。毎週木曜日の3時半から4時半、図書室に授業の終わった子どもたちが集まります。先生が学習の必要性を認め、保護者の同意を得た子どもたちです。一人ひとりに高齢者や学生などボランティアが寄り添います。和気あいあいとしたとてもあたたかい雰囲気でした。

一般質問で高橋は、子ども家庭局が進めている中学生を対象にした学習支援事業を評価しながらも「学習格差は小学校から始まる。

すでに過半数の小学校で教員によって行われている放課後学習を、教員の負担軽減のため、NPOが組織するボランティアと『学ぶ力・生きる力向上支援員』が協力して行う放課後学習支援に置き換えてはどうかと求めました。小原副市長は「NPOと学校との橋渡しをしたい」と答弁。長田教育長も「地域の方々が学校を活用して学習支援をしていただくことは大変ありがたい」と答弁。久元市長も「放課後の学習支援も含めた子ども家庭局と教育委員会の連携は非常に大事なテーマ」と応じました。

不登校のことを安心して相談できる窓口を

高橋は、不登校の子どもさんを持つ親の相談を行っているNPOや親の会と連携していますが「子どもとのやりとりに憔悴してしまっからの相談が多い」と聞いていたので、神戸市青少年センターに独立した相談窓口を作り、保護者どうしが集まる場へつなげるよう求めました。教育長は「不登校支援のあり方を検討する委員会を7月に立ち上げる。国も当事者目線で語られる経験は同じ悩みを抱える保護者の支えになると言っているの、神戸市の相談窓口や保護者サポートのあり方を検討する」と回答。高橋は「大切なことは、学校に行けば〇、行かなかったら×という見方からの脱却。教育長はどう思うか？」と問いましたが、教育長は「文科省からも登校の結果のみを目標にするべきでないと言われている。一人ひとりの児童生徒に即した支援を探る」との答弁にとどまりました。



不登校についての保護者アンケート結果を教育委員会に提出(7月7日)

ギャンブル依存対策 医師と家族会の連携を



ギャンブル依存症家族の会と司法書士会に要請

神戸市精神保健福祉センターは、神戸大学病院と垂水病院の協力で月2回の依存症医師専門相談を今年4月から始めました。8月まで予約が埋まり、ギャンブル依存相談が多いようです。高橋は医師専門相談を評価したうえで、依存症の回復には家族会の果たす役割が大きいため、家族会が同席できるよう求めました。小原副市長は「(家族会の同席は)相談を躊躇させるかもしれないので困難だが、家族会とつながれるように情報提供を行う」と答弁。さらに高橋は、ギャンブル依存の回復には、関係機関とくに警察・弁護士・司法書士などの理解が不可欠。関係機関との連絡会議を」と求めました。副市長も「各機関の支援状況、課題などの情報交換を行い、改善方法を検討する場を設置したい」と答弁しました。

福祉環境委員会(健康局・福祉局・環境局担当)の質疑から

神出病院事件—精神病院から虐待をなくそう

21年1月に発覚した神出病院(精神病院)での患者虐待事件。経営する医療法人が第三者委員会を発足させ、事件を検証する報告書が公表されました。指導的な立場の看護師も含む組織的な虐待の新たな事実も明らかになり、神戸市の監査の不備、兵庫県の法人経営監査の不備も指摘されています。

委員会で高橋は、報告書の受け止めと神戸市の監査の改善を求めました。健康局長は「やっと法人が当事者意識を持ち、調査に協力する職員も増えた。判明した新たな事実は神戸市としても認定作業を行う。今後は抜き打ち検査も、虐待の可能性が疑われる場合には行っていく」と答弁しました。高橋は、神戸市が独自に精神病院の内部通報制度を作ったことをふまえて、障害者虐待防止法の対象に医療機関を加えることを国に強く要望するよう求めました。



大学の学生相談と連携した障害福祉サービスを

「大学になじめず、修学意欲湧かず、不適應で中退、10年前の倍になった」(神戸新聞5/2)と紹介されたように、人間関係で困難を抱える大学生が増えています。高橋は3月の委員会で「大学を休学して障害福祉サービスの生活訓練事業を受ければ、復学から一般就労も可能」と指摘しました。さらに6月の委員会で、神戸学院大学の学生相談と連携した生活訓練事業所が8月に灘区で開業することを紹介し、当局の見解を求めました。福祉局長は「(生活訓練事業への)ニーズはまだまだあるのではないかとのご指摘を受け止める」と答弁しました。高橋は「就労支援」に限定されない障害福祉サービスを充実させていきます。



アソシアホイスコーレ準備室の職員さんと

若葉学園(児童自立支援施設)の環境改善を

高橋は6月29日に、垂水区内にある神戸市立若葉学園(児童自立支援施設)を見学しました。当初は、犯罪を起こす可能性のある子どもを、小舎夫婦制という独特の疑似家族で愛情たっぷりに育てる施設として始まりました。しかし現在入所するのは、虐待を受けた子どもたちが大半です。自力で通学できる子どもは養護施設に入りますが、親の連れ去りが予想されるなど通学困難な子どもが若葉学園に入ります。児童精神医療では、発達の未成熟による問題行動を薬で症状を緩和させる「薬害」が問題になっていますが、ここでは愛情たっぷりの支援によって「減薬」できています。差し迫った問題は38年前に建設された生活環境の整備。移転の構想がコロナ禍で白紙となりましたが、子どもたちにはプライベート空間が必要です。寝室のベッドの整備やトイレやお風呂場の改善など園長の要望はどれも緊急かつ切実なもので、実現に向けて取り組んでいきます。



雑魚寝状態の子ども用寝室

高橋ひでのり プロフィール

●1957年生まれ。●1984年京都大学卒業後、神戸市に就職。生活保護ケースワーカーとして勤務。●1995年阪神淡路大震災時、避難者の生活保護受給に奮闘。垂水区役所等で国保・年金業務を担当。

●勤務と並行し平和・脱原発・差別撤廃などの市民運動に参加。●2011年 精神保健福祉士の資格取得、精神障害者の成年後見ボランティア参加。●2017年3月59歳で退職。●2019年4月神戸市議員選挙(垂水区)に立候補し4162票で初当選。●つなぐ神戸市議員団の政調会長。福祉環境委員会/外郭団体に関する特別委員会委員。●趣味：ゴスペル・登山



Facebook発信中

2022

9/18日
14時~16時

第3回 高橋ひでのりサポーター集会のお知らせ

【場所】レバンテ2番館 垂水区文化センター 多目的ホール (13時半開場)

参加費無料です。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。